

住民の主観的評価に基づく「地域活力」の基礎的検討 —評価尺度と地域評価が及ぼす影響について—

山口大学大学院創成科学研究科 学生会員 ○藤原 昇汰
山口大学大学院創成科学研究科 正会員 鈴木 春菜

1. はじめに

近年、「地域の活力」の増大を目途として地方創生事業が進められてきた。しかし、目指されている「地域の活力」について詳細は明らかでなく、その評価には移住者の数や住民の所得¹⁾など、客観的な指標が主に用いられてきた。

「地域の活力」は地域を生命体の様に捉えた言葉であり、社会学の「社会有機体説」の考えに近い表現である。社会有機体説では社会が生命体に見立てられ、その生命力が人間に心理的に正の効果を及ぼすことが示唆されている(藤井(2015)²⁾)。すなわち、「地域の活力」の活性化の効果には心理的なもの含まれると想定される。従って、地域を活性化することを企図した各種事業の評価を適切に行うためには、主観的指標との関連性を考慮することが必要であるように考えられる。本研究では「地域の活力」の有効な評価とその効果について、その性質と影響を把握することを目的とする。

2. 地域評価尺度、「地域の活力」尺度候補項目の検討

主観的な地域活力や影響を及ぼす主観的尺度の候補となる項目を検討するため、新聞データを分析し、一般的に用いられている語を抽出した。分析対象は朝日新聞(1985/1~2018/9)、読売新聞(1987/10~2018/9)とした。まず、見出しに「地域の活力」を含む記事を抽出した。その後、テキスト分析ソフト「KHCoder」を用い、「地域の活力」と関連の強い語を抽出し尺度候補となる項目を作成した。その関連度の強さに関しては Jaccard 係数、KHCoder によりスコア化された語同士の文章中の距離の近さを指標として用いた(表1)。テキスト分析の具体的な手順を

表1 Jaccard 係数と語の距離のスコアについて

Jaccard 係数	$\frac{a}{F_1 + F_2 - a}$	a=ある語2が語1の前後に出現した回数 F ₁ =語1がデータ全体に出現した回数 F ₂ =ある語2がデータ全体に出現した回数
距離のスコア	$\sum_{i=1}^5 \frac{(l_i + r_i)}{i}$	l ₁ =ある語2が語1の直前に出現した回数 l ₂ =ある語2が語1の2つ前に出現した回数 r ₁ =ある語2が語1の直後に出現した回数 r ₂ =ある語2が語1の2つ後に出現した回数

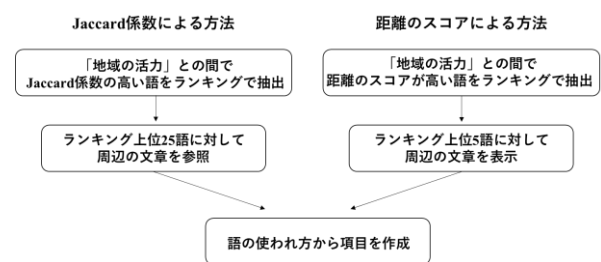


図1 テキスト分析の手順

表2 テキスト分析により作成された項目

「地域の活力」評価尺度項目 (α=.81)	
地域に活力がある	地域に力がある
地域評価尺度項目	
住民が主体的に活動している	上下水道が整備されている
地域が誇りをもっている	道路が整備されている
地域の活動が熱心に行われている	まちなが整備されている
住民が地域の将来を考えている	公共交通が整備されている
地域に対する信頼がある	長距離の移動手段が確保されている
地域の中に多様性がある	インフラの工事が行われている(最近行われていた)
住民同士のつながりがある	医療環境が整備されている
市政に信頼がある	地域行政が熱心に雇用確保に取り組んでいる
地域はこのエリアの中心のまちである	地域行政が熱心に福祉に取り組んでいる
NPO活動が行われている	地域間の連携が行われている
地域の政治家が熱心に活動している	住民と自治体が協働している
選挙の投票率が高い	人口減少が進んでいる
地域特有の産業がある	若い人材が流出している
地域ににぎわっている道の駅がある	若い人が多い
地域に百貨店がある	高齢者が多い
地域特有の商店がある	人口が多い
地域のプロスポーツチームがある	放置された空き家が多い
地域資源を活用した産業がある	小中学校の統廃合が進んでいる
地域に特有の文化・芸術がある	地域がにぎわっている
地域に歴史的景観がある	人が集まり、交流している
最近新しい商業施設ができた	地域行政が熱心に観光に取り組んでいる
地域の図書館が多く利用されている	まちが変化している
耕作放棄地や放置森林が多い	県内での就職が多い
	この地域の賃金の水準は生活するのに十分だ
	最近災害で大きな被害を受けた
	祭りが行われている

図1に、作成された項目を表2に示す。

キーワード 地域の活力, 主観的指標, 地域愛着, 意識分析, 地域の評価

連絡先 〒755-8611 宇部市常盤台2-16-1 都市・社会システム工学研究室

T E L 0836-85-9300

3. アンケート調査概要

主観的な地域活力や影響を及ぼす主観的尺度について検討するため、2.で作成した尺度候補項目を用いて、WEB アンケート調査を2018年12月に実施した。回答者は地方部と都市部で各300人、性別・年代が均等になるよう20歳から69歳までの合計600人とした。質問項目を表3に示す。表2に示した項目のうち「地域に活力がある」「地域に力がある」を地域の活力尺度、その他の項目に変化の要素を付け加えたものを地域評価尺度として用いた。その他に「地域の活力」の主観的指標への影響を検討する為に主観的幸福感(Subjective Well-Being, SWB)、地域愛着尺度を質問項目として用いた。SWBに関しては北川(2010)³⁾が用いた感情的な幸福感を表す生活AWB(Affective Well-Being)尺度、認知的な幸福感を表す生活SWLS(Satisfaction with life scale)尺度を用いた。地域愛着については萩原(2005)⁴⁾が作成した被験者の地域に対する選好、感情、持続願望の意識を下位尺度とする地域愛着尺度を用いた(表3)。

表3 調査に用いた質問項目

個人属性	性別、年齢、在住地域、出身地域、職業
主観的幸福感尺度	感情的幸福感尺度(生活AWB) 4項目を6種類
	認知的幸福感尺度(生活SWLS) 5項目
地域愛着尺度	選好 6項目
	感情 4項目
	持続願望 3項目
「地域の活力」尺度($\alpha=.81$)	「地域に活力がある」「地域に力がある」の2項目
地域評価尺度	テキスト分析で作成した49項目+まちの変化について3項目

4. データの分析、考察

4.1 「地域の活力」の性質の検討

調査の結果を用いて、地域評価尺度項目の因子分析を行った(主因子法、プロマックス回転)。分析の結果、表4に示す通り4つの因子が抽出された。因子負荷量がどの因子にも十分な値を示さなかった6項目を削除した(表5)。第一因子については因子内項目の意味のまとまりが不十分であると考え、再度因子分析を行った。その結果、表6に示す2つの因子が抽出された。まず初めに行った因子分析で抽出された第二因子から第四因子については、項目内容からそれぞれ「地域アイデンティティ」「インフラ整備」「人口属性」とした。第一因子を因子分析した結果抽出された2つの因子についてはそれぞれ「ソーシャルキャピタル(SC)イメージ」「行政」とした。

表4 因子分析結果(主因子法、プロマックス回転)

項目内容	I	II	III	IV
地域間の連携が行われている	.979	-.371	.148	-.062
住民と自治体が協働している	.958	-.295	.134	-.062
住民が主体的に活動している	.837	.060	-.114	.047
地域の活動が熱心に行われている	.769	.104	-.006	-.008
住民が地域の将来を考えている	.739	.121	-.085	.032
地域行政が熱心に雇用確保に取り組んでいる	.730	-.079	.069	.023
地域行政が熱心に福祉に取り組んでいる	.720	-.154	.113	-.047
住民同士のつながりがある	.670	.133	-.064	-.150
地域の政治家が熱心に活動している	.670	.136	-.118	.020
市政に信頼がある	.667	.086	.079	.051
地域が誇りをもっている	.663	.202	-.047	.008
地域に対する信頼がある	.662	.100	.057	.002
選挙の投票率が高い	.653	.033	-.123	.034
NPO活動が行われている	.546	.277	-.125	.009
地域の中に多様性がある	.438	.256	.057	.144
地域はこのエリアの中心のまちである	.407	.360	-.112	.069
地域特有の産業がある	-.033	.716	.138	-.156
地域ににぎわっている道の駅がある	.009	.672	-.213	-.093
地域に百貨店がある	-.211	.656	.014	.087
地域特有の商店がある	.056	.619	.139	-.069
地域のプロスポーツチームがある	-.114	.615	.027	.051
地域資源を活用した産業がある	.139	.601	.056	-.110
地域に特有の文化・芸術がある	.198	.589	.032	-.240
地域に歴史的景観がある	.094	.555	.125	-.293
最近新しい商業施設ができた	.026	.498	.103	.148
地域の図書館が多く利用されている	.074	.459	.127	.014
耕作放棄地や放置森林が多い	.093	.451	-.364	-.331
上下水道が整備されている	-.063	-.020	.849	-.129
道路が整備されている	.076	-.045	.834	-.165
まちなかが整備されている	.193	.020	.732	-.051
公共交通が整備されている	-.060	.088	.714	.109
長距離の移動手段が確保されている	-.059	.210	.625	.102
インフラの工事が行われている(最近行われていた)	.114	.315	.363	-.049
医療環境が整備されている	.339	.110	.354	.006
人口減少が進んでいる	.038	.076	.041	-.764
若い人材が流出している	.084	.019	.043	-.609
若い人が多い	.137	.255	.002	.556
高齢者が多い	-.107	.079	.281	-.544
人口が多い	.057	.204	.168	.520
放置された空き家が多い	.081	.275	-.136	-.466
小中学校の統廃合が進んでいる	.131	.370	.008	-.390
地域がにぎわっている	.264	.309	.028	.383
人が集まり、交流している	.251	.281	.050	.372

表5 削除された項目

削除された項目
地域行政が熱心に観光に取り組んでいる
まちが変化している
県内での就職が多い
この地域の賃金の水準は生活するのに十分だ
最近災害で大きな被害を受けた
祭りが行われている

表7に示す通り、それぞれの尺度の信頼性係数は十分な値であった。

表 6 第一因子の因子分析結果
(主因子法、プロマックス回転)

項目内容	I - I	I - II
地域の活動が熱心に行われている	.900	-.035
住民が主体的に活動している	.867	-.001
地域が誇りをもっている	.856	-.028
住民が地域の将来を考えている	.834	-.023
地域の中に多様性がある	.811	-.067
NPO活動が行われている	.722	.051
地域に対する信頼がある	.681	.090
市政に信頼がある	.620	.194
地域はこのエリアの中心のまちである	.613	.017
住民同士のつながりがある	.594	.093
地域の政治家が熱心に活動している	.558	.222
選挙の投票率が高い	.470	.241
地域行政が熱心に福祉に取り組んでいる	-.158	.926
地域行政が熱心に雇用確保に取り組んでいる	.007	.844
住民と自治体が協働している	.226	.637
地域間の連携が行われている	.227	.609

表 7 因子名と信頼性係数

因子	因子名	α
I - I	SCイメージ	.94
I - II	行政	.88
II	地域アイデンティティ	.85
III	インフラ整備	.89
IV	人口属性	.78

表 8 「地域の活力」、地域評価尺度の相関分析

	SCイメージ	行政	地域ID	インフラ整備	人口属性
地域の活力	.813**	.627**	.628**	.599**	.607**

** $p < .01$ $n=600$

次に、「地域の活力」尺度と地域評価尺度の関係を検討する為、両尺度間の相関分析を行った（表 8）。相関分析の結果、すべての地域評価尺度と「地域の活力」が統計的に正の相関を示した。因果関係を検討するためパス解析を行った（図 2）。分析の結果、適合度が十分な水準となったモデルでは地域評価尺度のうち「SC イメージ」「地域アイデンティティ」「人口属性」が「地域の活力」に直接有意な影響を与えている可能性が示された。

4.2 「地域の活力」の影響の検討

主観的な「地域の活力」が SWB・地域愛着に及ぼす影響を検討した。まず、地域愛着尺度の 3 下位尺度得点の合計を地域愛着度とした。次に、「地域の活力」尺度、地域愛着尺度、SWB 尺度間の相関分析を行った（表 9）。その結果、全ての尺度間の相関係数

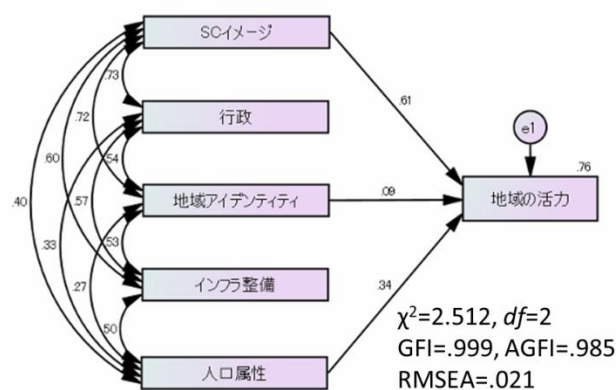


図 2 「地域の活力」、地域評価尺度のパス解析
(パスの上の数字は標準偏回帰係数を、
変数の上の数字は決定係数 R^2 を示す)

表 9 「地域の活力」、地域愛着度、SWB の相関分析

	地域愛着度	生活AWB	生活SWLS
地域の活力	.640**	.287**	.302**
地域愛着度	-	.388**	.385**

** $p < .01$

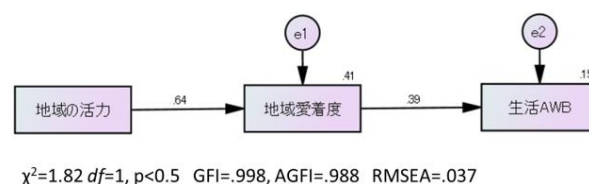


図 3 「地域の活力」、地域愛着度、SWB のパス解析

が正であり、統計的に有意であった。「地域の活力」尺度と地域愛着度の相関係数が比較的大きく ($r=.640$, $p<0.001$)、地域愛着度と SWB 尺度の間の相関が「地域の活力」尺度との相関係数と比較して大きかった。この結果を踏まえて、「地域の活力」尺度が地域愛着度に影響し、地域愛着度が SWB 尺度に影響を与える因果関係を想定しパス解析を行い、図 3 に示すモデルが得られた。分析の結果、モデルの適合度は十分であり、決定係数 R^2 は地域愛着度から SWB 尺度へのパスより「地域の活力」尺度から地域愛着度へのパスにおいて高かった。

さらに、地域評価尺度が「地域の活力」と地域愛着度に対して与える影響を比較することを目的として、地域評価尺度と地域愛着度の関係を加味して分析を行った。ここで、地域への評価が地域愛着の規定因となることが既往研究で示唆されており（引地ら (2009) ⁵⁾）、本研究で定義した地域評価尺度は「地

域の活力」だけでなく、地域愛着等の住民の地域への意識の規定因と想定される。以上を踏まえて、図3に示した因果関係に加えて、「地域の活力」と地域愛着の説明変数として地域評価尺度を加えた構造を想定し、パス解析を行った。その結果、十分な適合度を示したモデル（図4）では「SCイメージ」「インフラ整備」が地域愛着度に有意な影響を及ぼす可能性が示された。

5. おわりに

本研究では、住民の地域に対する主観的な評価を用い、「地域の活力」の性質と影響の検討を行った。

「地域の活力」の性質については、新聞記事のデータをもとに「地域の活力」と関連度の高い語で構成された地域評価尺度候補項目を作成した。当該項目を用いたアンケート調査データの因子分析によって、「SCイメージ」「行政」「地域アイデンティティ」「インフラ整備」「人口属性」因子が抽出された。さらに、5つの因子と「地域の活力」尺度間に有意な正の相関が示された（表8）。また、それらの因子が主観的な地域の活力に及ぼす影響を検討し、「SCイメージ」「地域アイデンティティ」「人口属性」が「地域の活力」に有意な影響を及ぼすことが示唆される結果が得られた（図2）。

主観的な「地域の活力」が地域住民の各種の心理尺度に及ぼす影響については、パス解析の結果、「地域の活力」はSWBに比べ地域愛着に比較的大きな影響を与え、地域愛着がSWBに影響を与える因果関係が示唆される結果が得られた（図3）。また、地域評

価尺度を加味したパス解析では、地域評価尺度のうち「SCイメージ」「インフラ整備」が地域愛着に影響を与えることが想定される結果が得られた（図4）。

以上のように本研究では、これまで「地域の活力」がどのような文脈で用いられてきたのかを示すとともに、そのうち主観的な地域活力の醸成に影響を及ぼすと考えられる項目を示した。また、主観的な「地域の活力」が地域への愛着や主観的幸福感など人々の心理に影響を及ぼすことを示唆した。今後、具体的な地域活力の増進を目途とした事業の検討や評価に資するためには、地域性等を踏まえた具体的な方法を検討する必要がある。

参考文献

- 1) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局内閣府地方創生推進事務局（2016）「地方創生 事例集」
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/pdf/chihousousei_jireisyu.pdf>（参照 2019-2-8）
- 2) 藤井聡（2015）『土木計画学 公共選択の社会科学』学芸出版社。
- 3) 北川夏樹（2010）「交通行動が幸福感に及ぼす影響に関する研究」京都大学卒業論文
- 4) 萩原剛 藤井聡（2005）「交通行動が地域愛着に与える影響」土木計画学研究・講演
- 5) 引地博之 青木俊明 大淵憲一（2009）「地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—」土木学会論文集D 65(2), p101-110.

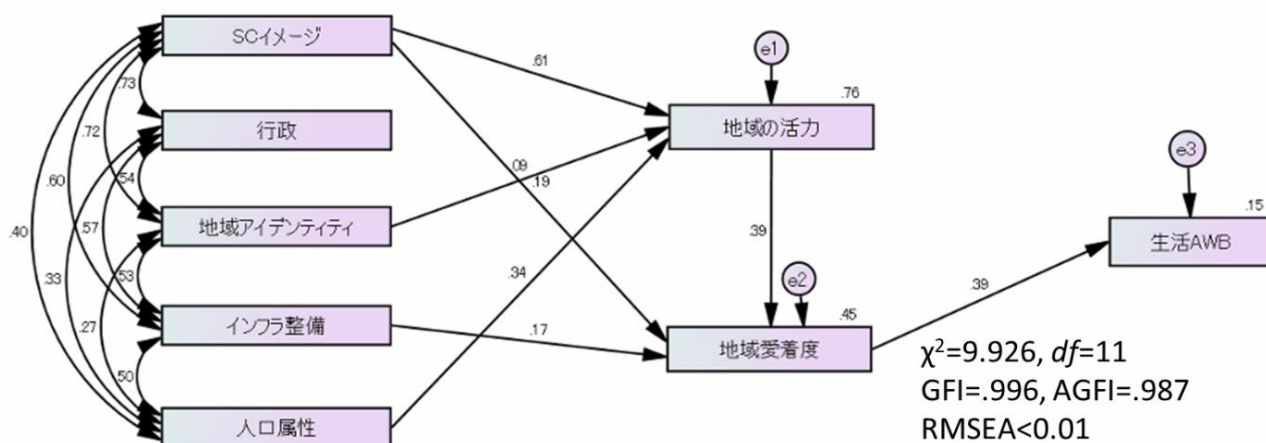


図4 地域評価尺度、「地域の活力」尺度、地域愛着度、SWB 尺度についてのパス解析